

科目名	特別活動の指導法（教育課程論を含む） Special Activities(Curriculum Theory)						
科目担当者	日高 俊一郎 HIDAKA Shunichiro						
単位数	2	配当年次	3 年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科〔専門教育科目 自由科目〕 経営学部・経営学科〔専門教育科目 自由科目〕					ディプロマポリシーとの関連	(5)(6)
授業の概要	本授業の目的は、教育課程の意味・編成・評価及びカリキュラムマネジメントの意義を理解すると共に、教育課程における特別活動の位置づけを明確にし、特別活動で育てる能力が何であるかを理解することである。 具体的には、カリキュラムマネジメントと絡めながら教育課程の編成とその評価について学びその過程で特別活動の位置づけ、歴史、構成、内容、意義、目的を理解する。次に、学級活動、生徒会活動、学校行事の具体的な計画を立案し、指導方法について講義と実習を通して体験と知識の融合を図る。最後に授業実践として、学級活動の模擬授業を行う。この段階では、より学校現場での取組に近づけるために、指導案作成、模擬授業、授業反省の流れを一サイクルとした授業研究を行う。なお、いずれの活動も4名程度グループを中心に行い、共同性を養う。						
授業の到達目標	① 教育課程の意味について説明できる。 ② 教育課程の編成・評価方法についてカリキュラムマネジメントを結び付けて説明できる。 ③ 教育課程における特別活動の位置づけを説明できる。 ④ 特別活動の歴史、構成、内容、意義、目的を説明できる。 ⑤ 学級活動、生徒会活動、学校行事の計画を立案できる。 ⑥ 学級活動の指導案を作成できる。 ⑦ 学級活動の模擬授業及び授業研究で課題を発見しその解決方法を指摘できる。 ⑧ 目的意識をもって意欲的に授業に参加している。						
授業計画・内容	1	教育課程とは(1) 教育課程の意味と目的と法的内容					
	2	教育課程とは(2) 教育課程の編成方法とそのポイント					
	3	教育課程とは(3) 教育課程の評価方法とそのポイント					
	4	教育課程の実際(1) カリキュラムマネジメントと特別活動の位置づけ					
	5	教育課程の実際(2) PDCA サイクルの実際					
	6	特別活動の実際(1) 学校行事の具体的指導方法					
	7	特別活動の実際(2) 学校行事の指導計画の作成					
	8	特別活動の実際(3) 生徒会活動の具体的指導方法					
	9	特別活動の実際(4) 生徒会活動の指導計画の作成					
	10	特別活動の実際(5) 学級活動の具体的指導方法と指導計画					
	11	実習(1) 指導案作成① 指導案作成のポイント					
	12	実習(2) 指導案作成② 授業過程の作成					
	13	実習(4) 模擬授業と授業研究① 残り 1/3 の学生の模擬授業とその協議					
	14	実習(5) 模擬授業と授業研究② 残り 1/3 の学生の模擬授業とその協議					
	15	実習(6) 模擬授業と授業研究③ 残り 1/3 の学生の模擬授業とその協議及び総括					
授業外学修 (事前学修)	・毎回講義前に、MSU Moodle にアップされた、講義のプレゼンテーションデータ及びワークシートを確認し、学習指導要領と関連させ予習を行う(毎週 1 時間)						
授業外学修 (事後学修)	・学校行事、生徒会活動の指導計画案の作成を行う(30 時間) ・学級活動の指導案の作成を行う(20 時間) ・学級活動の授業の資料準備等を行う(10 時間)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	・授業終了後に提出する「まとめ」 ・行事計画案 ・学級活動指導案 ・模擬授業の評価 ・出席状況及び自己評価、授業評価				25% 20% 20% 20% 15%	①② ③ ④ ⑤ ⑥	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省（平成29年告示）						
参考文献	適宜配布						
その他	卒業後、教職に就くという目標のある学生の受講を望む。						